

議員表彰を頂きました

市議会議員として10年の節目として表彰を頂きました。皆さんのおかげあってこそであり、自分ではなく、皆さんへの表彰と考えています。ご支援ありがとうございます。表彰後も、気持ちを新たにがんばっています。



若い世代との交流

昨年度もドットJPからインターン生を受け入れ、地域医療を応援する会では、鈴鹿医療科学大学の“鈴鹿きょうめいサークル”の学生の方々と活動し、政策のヒントを得ています。今年も若い世代を意識して活動しています。

■ドットJPのインターン

昨年9月に男子3名、今年3月に女子3名の学生を受け入れました(左写真)。

「未来国会」「未来自体」という課題を行いながらでしたが、自分もその中で学ばせてもらいました。

6人とも、ドットJPスタッフになっているので、これから期待しています。



■きょうめいサークルの学生と

きょうめいサークルの学生とは、月一回の会議と、彼らの新入生歓迎イベントの手伝いをしています。真摯に活動する彼らからも、学ばせてもらっています。

(写真は今年の打合せの様子)



伝統産業を学ぶ

昨年も伊勢型紙関係について取り組みました。その中、東京の富田染工さんの工房にお伺いしました(右写真)。型紙を使う染め体験をしたことは、鈴鹿にながればいいか、実感し考えるきっかけになりました。

また、浅草で木版職人として活動するデービット・ブルさん(写真下)から話をお聞きする機会があったのですが、伝統産業をつなぐにはなにが必要なのか



言葉から感じられました。

伊勢型紙については、白子でテラコヤの活動をする木村さんとの交流からも、型紙にとどまらず、いろいろとヒントを頂いています。



平成29年度の活動いろいろ

昨年も議会活動以外で、いろいろな活動に参加したり、たくさんの方々と交流させていただきました。それをさらに活動に活かしています。

他市町議員と交流



市議会だよりづくりに活かすこと、教育現場でも活用できると考えています。このときあわせて構想日本で、伊藤伸さんと、左側掲載の事業について打合せを行いました。



昨年は、構想日本の現場みらい塾や、敦賀の前川市議と東浦の成瀬町議が主催している地方自治学習会などに参加しました。



現場みらい塾では、他の自治体職員の方との意見交換や、講師の方との意見交換など充実したもので、「赤字国債は財政麻薬だ」という故大平元総理の言葉など、今の時代を考えさせられました。

地方自治学習会は、党派などにとらわれない、広域での議員の勉強会(写真右上)で、それぞれの実践事例など、お互いの活動を共有しています。私も励みにしながら、鈴鹿での取組みに活かしています。写真では岩倉の大野市議が、議会と市民の皆さんとの取組について説明、鈴鹿市議会でも参考になりました。

今年に入ってから、川崎の小田市議が主催のグラフィックレコーディング(写真右下)の勉強会に参加、絵や図を使いながらメモを取ることを自分でも体感し、有益な手法ということを実感しました。

～ 地方自治学習会@鈴鹿 ～

「手元にある資料から 審議に切り込もう」

～事業仕分けの視点を活用しながら～

・日時： 7月26日(木) 13:00～17:00(予定)

・場所： 鈴鹿市市民会館2階

・概要：

第一部 「ソーシャルインパクトボンドについて」

…講師：川西市議・米澤 拓哉氏

第二部 「手元にある資料から審議に切り込もう」

…講師：構想日本・伊藤 伸氏

・参加費： 6千円

・問い合わせなど

中西宛にメールにて



国の長期債務が一兆円を超えています。赤字国債の発行で財政をまかなうことが、さも当たり前のように行われてしまっているからだと麻痺してしまっているからだと思います。

こんなことはいつまでも続けられるわけではなく、いずれ破綻する可能性が高いことは目に見えているでしょう。この状況は、ちょうど破綻という壁に向かってチキンレースをしている状況のようです。

問題なのは、「もっと、もっと」とありたてる人たちも多くは、早々にレースから降りてしまえばいい、のんびりしない状況になるのは、若い世代や、これから生まれる世代だということだ。

16歳から64歳の、いわゆる生産年齢人口は、これから減少するばかりです。出生数を上げて、その子達が働き始めるまでには相応の時間が必要で、一人当たりの収入が大幅に上がらない限りは、財政も縮小するでしょう。

そんな状況で、聞こえのいい政策ばかり語ることが、将来の財産から奪い取ることを前提にしているといわれても仕方ないと思います。

だからこそ、将来世代、子どもにツケをまわさない、その意識で政治に関わらなければいけないというのを、置いて自分の指針として置いているのです。

